

## 音楽科学習指導案

5年3組 33名 指導者 福留三穂

本授業では、以下の検証を行うものである。

比較する「思考スキル」や関連付ける「思考スキル」を活用した発問や思考の可視化は、音楽のよさや面白さと演奏に対する思いや意図を結び付けさせるための手立てとして有効であったか。

## 1 題材 いろいろなひびきを味わおう

教材 「いつでもあの海は」 佐田和夫作詞／長谷部匡俊作曲  
「リボンのおどり」 芙龍明子日本語詞／メキシコ民謡／原由多加編曲  
「双頭のわしの旗の下に」 J. F. ワグナー作曲  
「アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」 モーツァルト作曲

〔共通事項〕 音色、旋律、強弱、音の重なり

## 2 目標

歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり、想像豊かに聴いたりすることができるようにする。

音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気を付けながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

## 3 題材の評価規準

- 声や音が重なり合う美しい響きを求めて表現したり聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしている。 【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 【音楽表現の創意工夫】
- 旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、表情豊かに歌ったり楽器を演奏したりしている。 【音楽表現の技能】
- いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いや、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。 【鑑賞の能力】

## 4 題材について

## (1) 題材の価値

子どもたちはこれまでに、4年生の題材「旋律の特徴を感じ取ろう」や「音の重なりを感じ取ろう」で、部分合唱や合奏を経験し、旋律や曲の特徴を生かして演奏したり、旋律の音が重なり合う響きを感じ取りながら想像豊かに聴いたりする能力を身に付けてきている。

本題材では、二部合唱やいろいろな楽器を組み合わせ合奏する曲を教材として、歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きを感じ取って、表情豊かに歌ったり演奏したりすることや、音の特徴や音色の違いを生かして演奏の仕方を工夫することができるようになることをねらいとした。

「いつでもあの海は」は、海に思いを寄せる心情を歌った合唱曲である。歌詞の内容や曲想に込められた思いを感じ取らせ、それらを演奏に生かしたり、旋律の重なり方の特徴に気付かせたりすることにより、歌い方を工夫させるようにしたい。特に、後半の合唱部分では、旋律の重なり方の違いを感じ取らせながら、互いの歌声を聴き合ったり、自分たちの合唱を録音して聴いたりするなど評価意識をもたせながら学習を進めていきたい。

「リボンのおどり」は、全体の響きを考えながらパートにふさわしい楽器を選んだり、旋律の重なり方を工夫したりすることで、楽器の音が重なり合う響きを感じ取ったり、響きの変化を楽しんだりすることができる曲である。合奏では、曲のよさや面白さを感じ取ったり話し合ったりする活動を設定して、演奏に対する自分やグループの思いや意図を明確にさせたり、互いの演奏を聴き合う活動を充実させたりすることで、豊かな表現を追究させるようにしたい。

「双頭のわしの旗の下に」、「アイネクライネナハトムジーク第1楽章」は、吹奏楽と弦楽合奏の響きの違いを明確に感じ取ることができる。演奏する楽器の編成による吹奏楽と弦楽合奏それぞれの曲想を感じ取らせたり、比較鑑賞して感じ取ったことなどを交流させたりすることで、合奏による表現の深まりや広がり味わわせるようにしたい。

これらの学習は、和声の響きを感じ取って表現したり、曲想を生かして表現したりする学習へと発展していく。このような学習により、旋律が重なり合う響きを味わい、美しい響きを追究していく態度が育成され、豊かな表現を追究する力が身に付いていくものである。

## (2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、合唱や合奏では歌声や楽器の音が重なり合うことによって生まれる響きを感じ取ったり、きれいな響きに関心をもつ子どもが増えてきた。しかし、旋律が複数ある曲に出会ったとき、自分の旋律のみを聴いて演奏する意識が高く、互いの音を聴きながら合わせたり、全体の調和を感じながら演奏する楽しさを味わうまでには至っていない。また、〔共通事項〕の関わりによって生み出される音楽のよさや美しさを感じ取ったりする能力や、自分の思いや意図を伝え合いながらより豊かな表現を追究する能力は、まだ十分とは言えない。そこで、自分たちの演奏や教材曲のよさや面白さを〔共通事項〕との関わりから考えたり感じたりさせ、それらを可視化することで、旋律が重なる面白さや重なり方の違いによる響きの違いを味わわせるようにする。また、録音機器の活用により、一人一人の感じ方のよさに気付いて認め合ったり、自分の思いや意図を明確に伝えたりする活動を設定することで、互いの思いや意図を共有しながらより豊かな表現を追究できるように指導していく。

## 5 指導計画（総時数11時間）

| 主な学習活動【評価規準】 |  | 〔共通事項〕   | 時間        |
|--------------|--|--|-----------|
| 1            | 題材「いろいろなひびきを味わおう」で、歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じたり、きれいな響きを味わって演奏したりする学習をすることを学ぶ。<br>【関：声が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に主体的に取り組もうとしている。】<br><u>いつでもあの海は</u>   | 旋律<br>音の重なり<br>強弱<br>(mf, f, mp)<br>変化                       | 1         |
| 2            | 範唱を聴いて曲の感じをつかみ、主旋律と響きをつくる旋律を歌う。<br>【技：曲想を感じ取り、歌詞の内容、旋律の特徴を生かした表現で歌っている。】<br>【鑑：範唱や友達の演奏、自分たちの演奏の旋律の重なり合う響きを感じ取りながら聴いている。】  |  | 2         |
| 3            | 旋律の重なり方に気を付けて重なり合う響きを感じながら合唱する。<br>【創：対位的な重なりと和声的な重なりの違いが生み出す響きを感じ取り、きれいな響きになるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。】<br>互いの演奏や自分たちの演奏を観点をもって聴く「ききタイム」の時間を設定して、自分たちの表現をより高めさせるようにする。                               |  | 1<br>(本時) |
| 4            | 表現を工夫しながら重なり合う響きを感じて合唱する。<br>【技：主な旋律や副次的な旋律、全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて歌っている。】<br><u>リボンのおどり</u>   |  | 1         |
| 4            | 「リボンのおどり」の楽譜を見て、①から⑦のパートの特徴について話し合い、それぞれのパートにふさわしい楽器を選んで練習する。<br>【関：音が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に、主体的に取り組もうとしている。】<br>【技：範奏を聴いたり、楽譜を見たりして演奏している。】<br>シンコーションのリズムの特徴をつかめるように、ペアで階名唱をさせたり手拍子を打ったりさせ、一人一人が自信をもって演奏できるようにする。 | 強弱<br>音の重なり<br>反復<br>変化<br>縦と横の関係<br>へ音記号<br>アクセント<br>リピート記号 | 2         |
| 5            | 曲全体のまとまりを考えて、繰り返す回数を決め、旋律やリズムの重ね方を工夫して響きの変化を楽しんで演奏する。<br>【創：いろいろな楽器が重なり合う響きを感じ取りながら、響きの変化を生かした表現を工夫し、楽器をどのように組み合わせるかについて自分の思いや意図をもっている。】   |  | 1         |
| 6            | 重なり合う響きの変化を楽しみながら演奏し、グループごと発表する。<br>【技：旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、響きの変化を感じ取って演奏している。】<br><u>双頭のわしの旗の下に</u>   |  |           |
| 7            | 曲の感じが変化する所に気を付けながら、吹奏楽の響きを楽しむ。<br>【鑑：いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いや、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。】<br><u>アイネクライネナハトムジーク第1楽章</u>  | 音色<br>(弦楽器)<br>リズム<br>旋律<br>強弱<br>音の重なり                      | 1         |
| 8            | 強さの変化に気を付けながら、弦楽合奏の響きを楽しむ。<br>【鑑：曲想とその変化などの特徴を感じ取りながら聴いている。】<br>曲の特徴や曲想の変化を図や言葉、体の動きで表現させ、それらを交流させることで、感じ取ったことの理由を音楽の中から見付けさせるようにする。   |  | 1         |

## 6 本 時（4 / 11）

### (1) 目 標

旋律の重なり方の違いが生み出す響きを感じ取りながら歌い方を工夫することができるようにする。

### (2) 評価規準

対位的な重なりと和声的な重なりの違いが生み出す響きを感じ取り、きれいな響きになるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。

【音楽表現の創意工夫】

### (3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、本時の教材と関連のある既習教材曲を歌わせ、斉唱における指導をしたり、友達と声を揃える楽しさを味わわせる。また、前時の学習に録音した演奏を聴かせ、本時の課題を

話し合わせる。「見通す」過程では、学習の進め方について話し合うとともに、歌い方を工夫するときの観点について具体的に確認させることで、子どもの思いや意図を演奏に生かすことができるようにしたい。「追究する」過程では、子どもたちの感性や発想を生かして、旋律の重なり方の違いによる響きの違いを感じられるように、グループ活動を取り入れる。また、比較する「思考スキル」や関連付ける「思考スキル」を活用した発問を取り入れることで、よく響く歌声になるための工夫を見付けさせていく。さらに、グループ活動において、聴き合う観点を明確に示したり、中間発表を行ったりすることで、充実した活動ができるようにする。「磨き合う」過程では、互いの演奏を聴き合ったり、自分たちの演奏を録音して鑑賞したりする活動を取り入れ、よりよい演奏にするにはどのようなことに気を付けたい工夫したりすればよいか考えさせるようにする。「振り返る」過程では、本時のめあてをもとに自己評価をさせ、自分たちの思いや意図を表現に生かすことの面白さやみんなで合唱をつくりあげることができたよさを実感させるようにしたい。

(4) 本時の展開 [ ] 子どもの意識 □ 指導の手立て ※評価

| 過程   | 時間 | 主な学習活動と指導の手立て・評価   |
|------|----|--|
| つかむ  | 10 | 1 既習教材曲を歌い、斉唱するとき気を付けることを確認する。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・風にゆらけている気持ちで歌おう。</li> <li>・歌うときは姿勢や口の形にも気を付けるといいね。</li> </ul>  |
|      |    | 2 学習課題を確かめる。<br>旋律の重なり方がちがうと、どのようなひびきになるのだろう。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間よりもきれいな響きを感じられるといいね。</li> </ul>   |
| 見通す  | 18 | 3 学習の進め方を確認する。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を聴いた感想や歌詞から想像したことも生かしていこうね。</li> <li>・「主な旋律」と「ひびきをつくる旋律」は、どのような旋律だったかな。</li> <li>・グループ練習の進め方も分かったぞ。</li> </ul>  |
|      |    | 4 2つのグループに分かれて歌い方を工夫しながら練習する。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・同じリズムで重なるところが難しいから、何回も練習しよう。</li> <li>・自分が歌う旋律に慣れてきたら、一緒に合唱しよう。</li> <li>・きれいに響くためには声の大きさを工夫する必要があるね。</li> <li>・CDの範唱は、歌い方がなめらかな感じがするね。どうしてだろう。</li> <li>・最後の同じ音は、優しい気持ちで一緒に歌うと音もそろうね。</li> </ul> |
| 磨き合う | 12 | 5 グループで練習したことを発表して聴き合い、気付いたことを話し合う。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・低い音を歌うときも、高い音を歌うときと同じように歌うといいね。</li> <li>・曲の山に向けて強弱を考えて歌うことができているね。</li> <li>・違ったリズムから同じリズムで重なるところは、響きが変わっていくからいいね。</li> <li>・息の使い方に気を付けてなめらかに歌えているね。</li> </ul>                            |
|      |    | 6 互いの演奏を聴いたり、学習の成果を録音したりして、気付いたことや感じたことについて話し合う。(ききタイム)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合った工夫が演奏に表れているね。</li> </ul>  |
| 振り返る | 5  | 7 本時の学習を振り返る。<br>旋律の重なり方が違うといろいろな響きを味わえる。  |
|      |    |  |

「音タイム」で、既習教材を活用して、本時の学習への意欲付けを図る。その際、姿勢や口形、発声の仕方について指導する。

学習の見通しと課題を明確にもたせるために、実際に歌い方の工夫を書き込んだ楽譜を見せたり、グループ活動の進め方を確認したりすることで、活動の見通しをもたせるようにする。

音量のバランスに気をつけたり、曲の山を感じたりしながら歌うと、旋律が重なり合う響きを感じることができるということへの気付きを促すために、「思考スキル」を活用した発問や言葉掛けを行うようにする。

海への思いや情景をイメージしたものを想起させることで、自分たちが最初に抱いた曲の感じと実際の歌声が合っているかを聴かせるようにする。

※ 対位的な重なりと和声的な重なりの違いが生み出す響きを感じ取り、きれいな響きになるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。

(歌う様子・発言の内容)

- 積極的に歌い方を工夫しようとする子どもには、歌い方のよいところを具体的に称賛するとともに、工夫したことがきれいな響きとして表れているか意識して聴かせるようにする。
- 活動が停滞している子どもには、教師と一緒に息を吸って歌ったり、楽譜を見て音の高さを確かめたりする。また、一つの音を伸ばして隣の友達と声を合わせることで、声と気持ちが合っていることを称賛して意欲付けをはかるようにする。

発表前に、グループの司会者に、演奏に対する思いや意図を発表させることで、互いに評価意識をもって聴くことができるようにする。また、それらをもとに練習して、全員による合唱を録音する。

本時の録音をもとに、課題について話し合い、次時の学習への意欲や課題意識をもてるようにする。